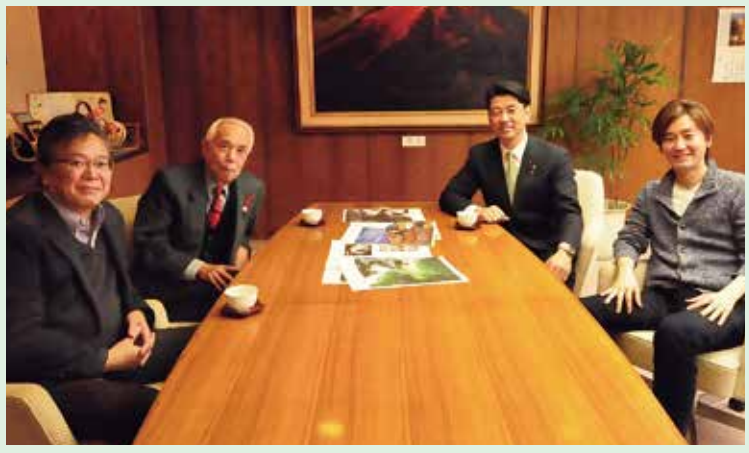
おとなりさん　新春座談会

あけまして
おめでとうございます。

新年の特別企画として、ゲストに小田原市の加藤市長（右奥）をお招きして自治会に関する座談会を行いました。



「おとなりさん」のメンバーは、小田原市自治会総連合の木村会長（左奥）、本誌発行人の鈴木（左前）、編集長の長嶺（右前）です。普段から交流のある4人の初座談会。新年らしい和やかかつ、活力に満ちた座談会になりました。

HAPPY NEW YEAR 2016

雑句場乱　新春放談

「地域別計画はえらかった！」

読者からのご意見、また本座談会内でも加藤市長から「字が小さい」との感想をいただきましたので、今号より自治会記事のフォント数は大きくなっておりますが、座談会に関しては予定時間を超過するほど盛り上がり、また内容も非常に貴重なものとなったため、可能な限り掲載するために字を小さめにするという編集方針をとらせていただきました。何卒ご了承をお願いいたします。

長嶺

今日は新年の座談会ということですが、常日頃から良く顔を合わせて話を重ねているみなさんですので、いつも通りざっくばらんにお話をできればと思います。まず最初にどこから入ったらいいかなと思ったのですが、やはりまずは加藤市長からおうかがいしたいと思います。「おとなりさん」の取材でもいつもいく先々でお会いしますが、自治会と行政とはどういう関係だとお考えでしょうか。

加藤

元々市長を志した時から、地域に色々な課題がある中で、どこが解決の主体になるのかずっと考えていました。私も市長になる前に子ども会の会長や、PTAの会長をやらせていただいていましたが、その中で、地域の色々な活動は、地域のお父さんたちというか、自治会長や色々なお役の方たちが本当にがんばってやってくれているのをまざまざと見てきていましたので、やはりこの局面で力を発揮していくのはやっぱり地域なのではないかという、自分なりの仮説がずっとあったんですよね。そういう思いで市長になり、実際に当時の連合会長さんはじめ、民生委員さんですとか、いろんな方達とお会いしていく中で、やっぱり小田原は地域ごとの取り組みというのをしっかりやっていくというのが、将来的な安全の確保といいますか、これからの難しい社会を支えていく一番基本的な単位になるんじゃないかという思いを深めていきました。また、市の総合計画では地域の皆さんにご無理申し上げて「地域別計画」*1というのを作っていただきました。まあ、その時に当時から富水の連合会長をやっていた木村会長には「大変だけどしかたないな」（笑）という感じで、先陣を切って走ってもらったんですね。富水のこの動きが、他の地区を引っ張っていったという経緯はほんとにありがたかったですよ。それで……途中経過は話すと非常に長いんですけど、今はとにかく、今年の3月末までに各地区自治会連合会の自治会の皆さんを中心に、地域の方達が連なって取り組みをやっていただける体制が26地区全部に行き渡る予定です。これはある意味、私が市長をやってきた2期8年の中で、未来のことを考えると、一番大きな成果ではないかなと、実は思っています。それだけ地域の方には感謝の気持ちが本当に強いですね。地域の現場で、長嶺さんとよく会いますけど、行くたびに私は本当に楽しいですし、ここでこんな活動が行われているっていうのを見るのはとても感動しますし、またそこで元気をもらいます。ただ一方で、ご苦労をかけていて申し訳ないなという……。

＊1＝地域別計画は、一層の市民参画として、地域のみなさんが話し合い、知恵を出し合って、それぞれの役割や責任を確認し、地域の将来像や課題、その解決方法、自ら取り組んでいく活動などをまとめたもの。

長嶺

木村

ご苦労、ありますか。

最初はだってやる気なかったんだよ（笑）市長の前で言っちゃわるいけど。

一同

（笑）

木村

地域でも色々やってててそれだけでも忙しいのにって。でも小田原市の企画部が来て、あの頃は25地区だけど、実は、25地区の自分たちがつくった「地域別計画」というのを市長が市の総合計画の中に加えるという話が来たわけ。それまで市からはやれと言われても、あとは地域で勝手にやっていただけで、やっても市の方からは何もなかった。それが今度は小田原市の総合計画に自分達の地域の活動を入れてくれるっていうんで、そこで感動した。そこまでやってくれるのだったらやらなきゃいけないなって。それでも、初めはもう全然わからない中でみんな始めてるから、地域でも色んな温度差があった。それをみんなに浸透させるまでが大変だった。だから最初はもう俺が責任取るからやろうよって引っ張って、最初は50人くらいかな、いろいろな団体を巻き込んで、福祉とか色々分科会ごとにグループを作って、あとは各トップを指名して。それでみんなで富水地区の良いところ、悪いところ、困ってるところを出しあって、それを元にできた「地域別計画」の案を市長に出したら、今度は地域政策課がきて、今度は「地域コミュニティ」*2のモデル事業をお願いしますといわれて。

＊2＝地域別計画に掲げた将来像の実現に向け、自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会など地域の様々な団体の参加により、住民自らが取組を行っていく組織。